※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	数学Ｃ(数研出版)						
副教材等	新課程 チャート式解法と演習　数学Ｃ（数研出版） 新課程 教科書傍用 サクシード 数学Ｃ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく、自ら考え、主体的に学習をしてください。また中学までとは、扱う問題の量が格段に増え、内容もより高度になっていきます。授業の中で「分かった」と思っていても、それを家庭でしっかり復習、演習をしていかないと「自分で解ける」ようにはなりません。また、試験前に全てをまとめて復習することは極めて難しいです。日頃からもし分からない事や、質問などがあれば、放って置かず、必ずその日のうちに解決していくようにしましょう。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。また、長期休暇中にはたくさんの課題が出されます。先生の話を良く聞き、計画的にこなしていくようにしましょう。
・問題を解くときはまず自分で考えてみましょう。その際、途中式や考え方も書くようにしましょう。分からないときは答えを見てもかまいません。ただし、そこに書いてある解説をしっかり読み、理解できるまで熟読しましょう。答えの丸写しだけは絶対やめてください。それでは何の力もつきません。

２　学習の到達目標

①　ベクトルについての基礎的な知識や技能を習得することをめざす。
②　事象を数学的に考察する能力を培うことで、思考力・判断力・表現力を習得することを目指す。
③　主体的に学習に取り組み数学を活用する態度を身に付けることを目標とする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトルにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識・技能を身に付けている。	ベクトル分野における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，思考力・判断力・表現力を身に付けている。	ベクトル分野における事象に関心をもつとともに，それらを事象の考察に主体的に活用し、取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　平面上のベクトル	第1節 平面上のベクトルとその演算	a：ベクトルの演算の仕組みを理解し，ベクトルについて，加法，減法，実数倍を考察することができる。 b：内積の性質を用いて，ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。 c：ベクトルの演算に興味，関心をもち，数式の演算法則との類似性を考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査	ワークシート レポート 振り返りシート
		第2節 ベクトルと平面図形	a：３点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 b：図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 c：位置ベクトルを用いて，平面図形についての命題を証明しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査	ワークシート レポート 振り返りシート
後期	第2章　空間のベクトル		a：空間のベクトルを，３つのベクトルの１次結合の形に表現できる。 ｂ:ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 c：空間のベクトルの内積と平面上のベクトルの内積を比較して考察しようとする。	確認テスト	定期考査	ワークシート レポート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度